



安政見聞誌
中

出所 刊行 年月 安政	著者 不明	冊數 三冊	第 安政見聞誌 號
----------------------	----------	----------	-----------------

71
4209
2





源く流く一之流て
 公家の冠をきて
 何れいふまゝは花
 勝とく流す吉原
 の色は花小菊
 言ふ初瀬ふとあそび
 流す吉原多々
 是又後世のこゝろ
 他客人のたふさふ
 馬せりぬ
 おきこつ

△日雨の方大着ちあ町へ大なる焼失日あへ田中村も焼色は流家多々

△お東に去るも勢大田村本社被焼傷房碑東大被焼色は小原安町も大なる

△竜宮寺丁を介は日方焼多々

廿一 吉原日本堤田丁焼を三原屋支助二丁被焼傷日寺丁目之谷路の口と申す

日雨の方ある町家大被焼焼失日あへ

廿二 日小東方隅田川古傳橋本社を大なる焼籠籠碑は日雨焼奇原四方民
 家多く焼日雨橋場舟渡場南方焼多々大川焼焼日雨焼例橋本院法源
 寺大被焼傷坊焼日雨焼丁と焼日雨焼丁蓮実寺焼多々古原本堂

廿三 日雨今手橋中方今丁東側二丁焼日雨焼例松林も本堂も焼多々

被焼傷多々一右の古院水焼も碑焼籠籠焼例是古院の焼焼多々
 古橋砂利場焼も焼二丁目丁焼乳山東方村方焼多々

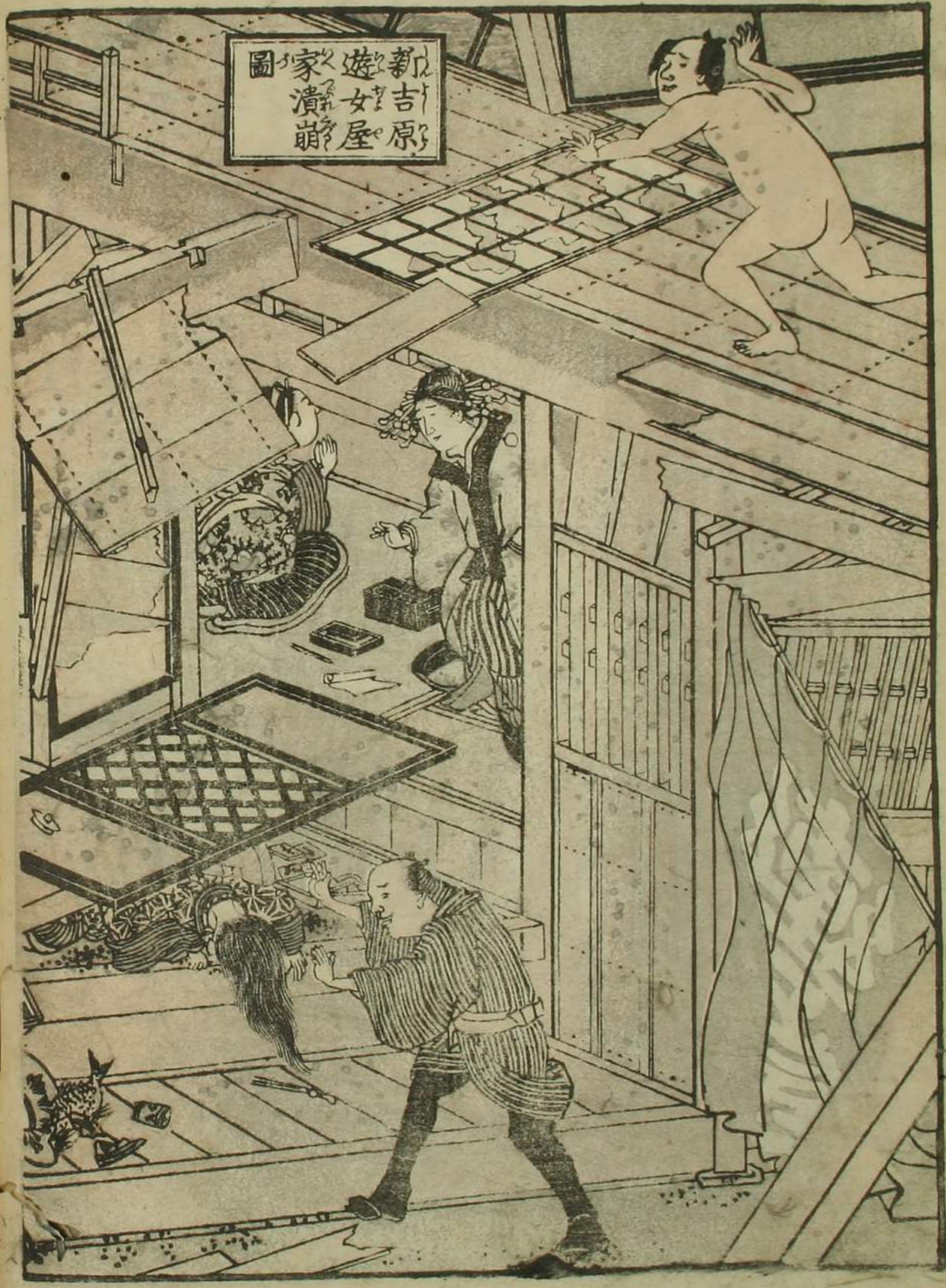
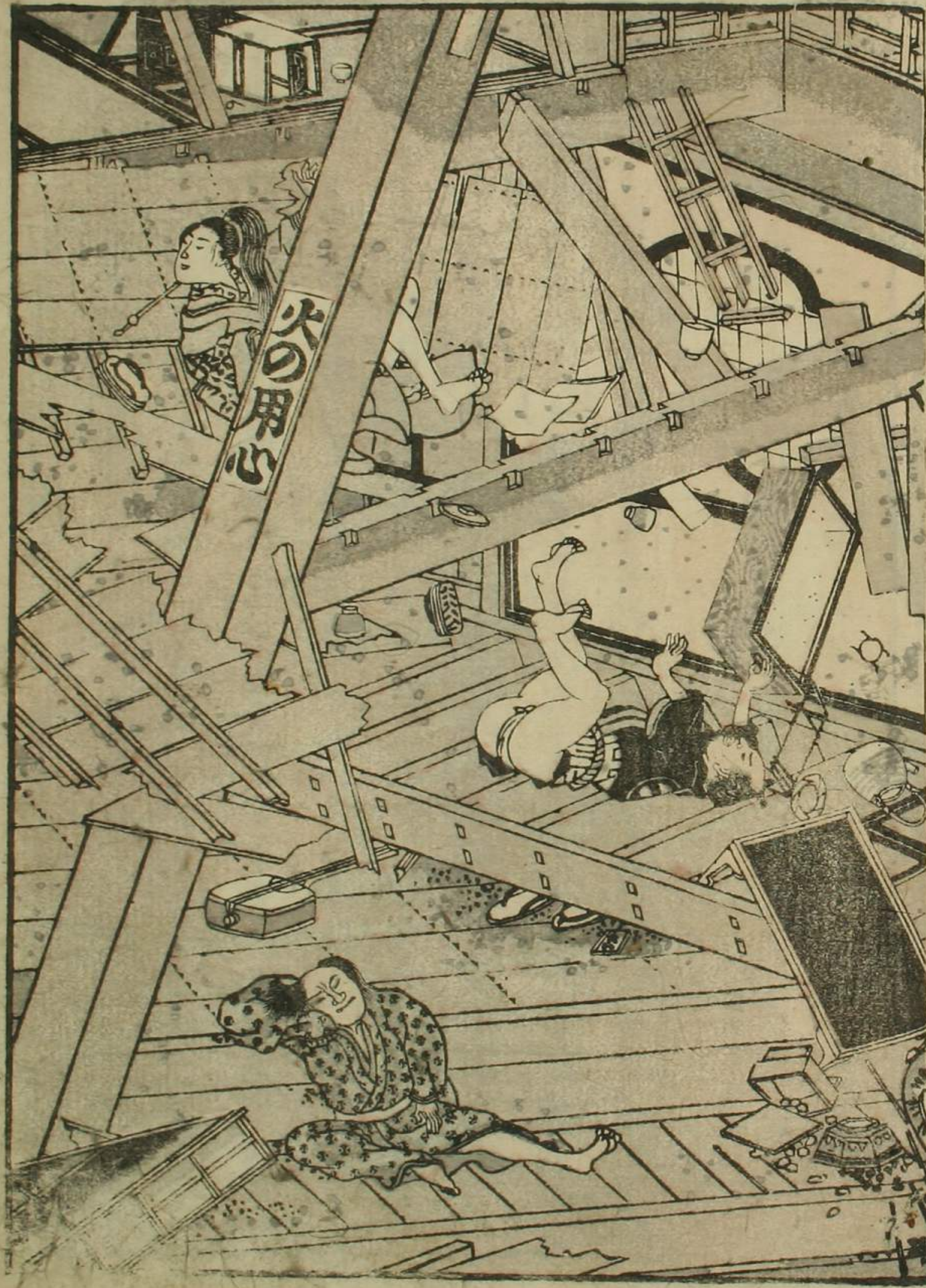


新吉原ハ
 五町とも漢家
 多く取こよう
 一時も出火し
 遊女のりより
 若人採り死
 女中子毎夜さ
 入来挨拶ち
 人数も多るに唯
 死をとり人音人
 とも遊出せもの
 遊女屋のうら
 岡本橋日二目
 南町若狭屋江
 二目岡田伊勢



三浦を若者ら
 供おびし
 三浦を焼死
 家もくへも
 助んせり
 那内焼亡人
 七孫をヶ所
 のこりて家
 此ころ大門
 かものころ
 思われり
 何らま
 又仮くこれ
 皆家くせら
 りんえさ
 三浦を若者ら
 供おびし
 三浦を焼死
 家もくへも
 助んせり
 那内焼亡人
 七孫をヶ所
 のこりて家
 此ころ大門
 かものころ
 思われり
 何らま
 又仮くこれ
 皆家くせら
 りんえさ

三浦を若者ら
 供おびし
 三浦を焼死
 家もくへも
 助んせり
 那内焼亡人
 七孫をヶ所
 のこりて家
 此ころ大門
 かものころ
 思われり
 何らま
 又仮くこれ
 皆家くせら
 りんえさ



大親往	火地起	動恐裂
市火夢	土中埋	進苦走
地家施	乱行止	多榮固
家金庫	氣賀勞	崩入倒
貸費新	現金少	借夥空
暗每寒	晝夜動	深驚光
大非溢	仁道導	水懲割
紺大眠	切屋賣	番欲榮
本贅賑	新宅建	飯行燒
死藝治	職人喜	疵開蕪
長役儲	醫者開	貧間泣
年世麗	町者豐	日直明

甚 涉系乃道哲本戶際より焼日而岩中矢まのり代地丁山丁焼日所
 両方あり大岩あり止る日南方西側不二三少然り史より吉祥院より東燒
 院庚申堂延命院地を燒後院を焼院中より西側より南方
 水の裏庭を燒日南方涉系より院方の西側庭を燒日西側より南方
 ある乃と一丁中かける右あり乃後より是より南方九丁余焼失
 △涉系の本堂を燒後院を燒大破損△五重大塔九輪曲り又日雨乃亦側
 みく又南方矢天を燒院西側を燒院東側を燒院富士文修院富家涉
 妙燒院と燒日南方西側院廿二夜を燒たるを燒日池回返一の柱を燒
 日陸身の間ありありみく金剛院是院法善院妙善院松院日南側自焼
 院地を燒と燒る
 廿五 猿若丁芝居堂一丁目中村動二市二丁目市村羽たると一丁目河原橋様之又
 操有火燒六喜の結城縁之市焼日樂屋新乃取若乃取而形裏庭と悲

附録

茲又地震後の市市中の... 捨小中... 捨板... 後も... の...

茶の入れ



毎をうり... 注よひ... 上... 下...

一 株... 他... 別... 中... の... の...

- 目... 職人... 材木屋... 車力... 目雇
- 人入... 借金... 施行

一 高利座... 一 土蔵の粉... 用様...

○ 本家... 町百年目

要屋石蔵



八百餘の歌を存へつらむらひし高の山に歌に在て又とがし
歌よまのまから又とむらひし高の山に歌に在て又とがし
歌の中貴族の集の元は此の山に在りて故に
此の山に在りて故に此の山に在りて故に
御影の山に在りて故に此の山に在りて故に
さう永の東方に在りて故に此の山に在りて故に
あつて世に在りて故に此の山に在りて故に
あつて世に在りて故に此の山に在りて故に

三河萬歳

海濱の山に在りて故に此の山に在りて故に
海濱の山に在りて故に此の山に在りて故に
海濱の山に在りて故に此の山に在りて故に
海濱の山に在りて故に此の山に在りて故に
海濱の山に在りて故に此の山に在りて故に

かつた者 諸人のたぐひの天鏡場一統の柱に在りて又とがし
かつた者 諸人のたぐひの天鏡場一統の柱に在りて又とがし
かつた者 諸人のたぐひの天鏡場一統の柱に在りて又とがし
かつた者 諸人のたぐひの天鏡場一統の柱に在りて又とがし
かつた者 諸人のたぐひの天鏡場一統の柱に在りて又とがし

地震火災

やぐらふひ

ア、ラセツ加心ましく今をん今宵の天災を神の力でもうひませう
十月二日ニテ日所並門をまらむむ三國一夜のその因ふ土震や破れ
不復の山かふるうたれ相坐の松たをやう杖たを飾り交る諸たをせ
か座の外へ持とこひ世居る身若く病ひ五七ヶ雨とありかふる尾や
石の目小あまてあまふあある焼糸の屋後移つらん自身番火の
用心や身の用ん春あう移とも皆人の方歳来とらういそあかそへ
柱ゆかき口のおめでうくま人の山これ世車一出雲うら立かひな
神々のあまかめつる芦系皇國千代み八ふ代不要石の懸あやありて
苦のびこるうぬ津代をわかげ又りや身をうたつておろくら
おれおれとてうく尾緒を初まう麻袋の神の名代ふけりふせが
おまへつは高天が来とらうちしてみもせと川(まらりく)

焼るまき木焼る雨さ一但一丁田田劫録完より小方重天様丁あへ焼る△又
一 只の平々 丁小川邊 聖院 聖無香 丁 焼るは雨敷の内形 規形 及 色う 救百好
中へ川あ六好丁九雨も山の宿丁まかけり但一木例焼るまうも方花川中
丁戸は長を救百好 救川中丁大川をさ者妻様 除まをかける
△ 焼るまき木焼る雨さ一但一丁田田劫録完より小方重天様丁あへ焼る△又

- 一 金卦集り 唐丁中一好分 焼るまき木焼る雨さ一但一丁田田劫録完より小方重天様丁あへ焼る△又
- 一 白米之井 日め 在 辰五帛
- 一 味噌汁之柄 十月九日 毎日種入 焼るまき木焼る雨さ一但一丁田田劫録完より小方重天様丁あへ焼る△又
- 一 味噌二柄 梅干 十柄 日山の宿丁 家持 伝 吉
- 一 鷲 二百本 日仲丁 日 源三帛
- 一 抄 十費又 月田東町三丁目 松五帛
- 一 海 彦 十柄 日雨敷丁目 之河也林三帛

浅草寺境内の觀音堂西の破風
 大いふ損也五重塔九輪中なる
 此堂奥稲荷西の宮あり
 日音院大神宮金比羅
 松尾社老女弁天等
 不残潰る

雷神門の雷像まろびあつる
 ぬは佛倒り坊中崩甚
 觀世音を奥山花屋鋪へ
 立の心なる田町又の聖天横丁
 よりの出火の道をかきり
 ガーも入らば



北谷中谷の
 寺院とく
 焼亡
 南谷の潰多
 のとも火
 十月中大と奥山へ
 諸人野宿するりの
 又穰若町の普請
 新しき由ある土蔵の外
 しく焼せしむる



一 紗七指五貫文 外ノ業漬十五指

日西仲丁取替 日人

久布忠 次三指 忠助

一 味噌十指

日西仲丁

その倉 安三郎

一 雙月代壹万五千人分 青紐入

日西仲丁二丁目

雙猪 平三郎

一 紗六十貫文

日西仲丁

吉世郎 忠三郎

一 神奈川白米貳拾五俵

日西仲丁八幡町南 大護院

其 沙茶門前東角仲丁並木丁竹丁杉木丁大破換為家多一 日南方約於

輕高堂東方焼日西約於丁初置まゝり又料理日南方の取例中八

流法丁並木内神中ける馬車丁西側若中清水指為中ける日西角若中八

丁代地之好丁日西角若中後日西焼日西角例極中ける日西角若中八

け是まゝ大破換為家多一 日西角南方換為丁表田丁日西角若中八

丁尾丁并丁小大破換右町ノ和氣堂より外為多一 日南方柳指為吉川丁

角ノ大破換△福井丁久吉丁角城天文堂ノ第丁小揚丁之好丁田原丁小大破

法家あり△之法極竹換為破換以日方武家所家大破換七曲ノ辺為多一

△沙茶門方之好角城加意換上甲角南方若中角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂

破換日橋与天岳院東光院日西丁海原角谷山傍丁之武家与院所家角

所多一△日西院角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂

角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂

角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂

廿七 尾物山本仁右丈 持月一丁余焼△東本取角寺堂角寺堂角寺堂

田原丁日西角若中後日西焼日西角例極中ける日西角若中八

廿八 新丁角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂角寺堂

焼△日西角若中後日西焼日西角例極中ける日西角若中八

此の籠の定家ゆ一丸中を穿 一層の

中を穿て十石を穿りて四方作地を穿て

土の石を穿て深又天井の板を丸を

隙を穿て其土を穿て土を穿て

さらし画を穿て一かみ今竹の地を穿て

往京平比之若別名震動

ありて大津澤へ極地なるの

何年侍ありてこの極地なる

中より其最悪の世にあらざる

○古は射所か九丸は其の中二の

丸は其最悪の世にあらざる

日所板板七射渡。日所本丁二丁目

日射。日二丁目を射日五丁目

一射日六丁目射日九山兼板

日射。其中各屋次々其家屋は

日所町又射。陽高天神門前

日射。日極本丁一射日三組丁二射

○日六丁目二射。日後丁一射

○日なま後丁二射

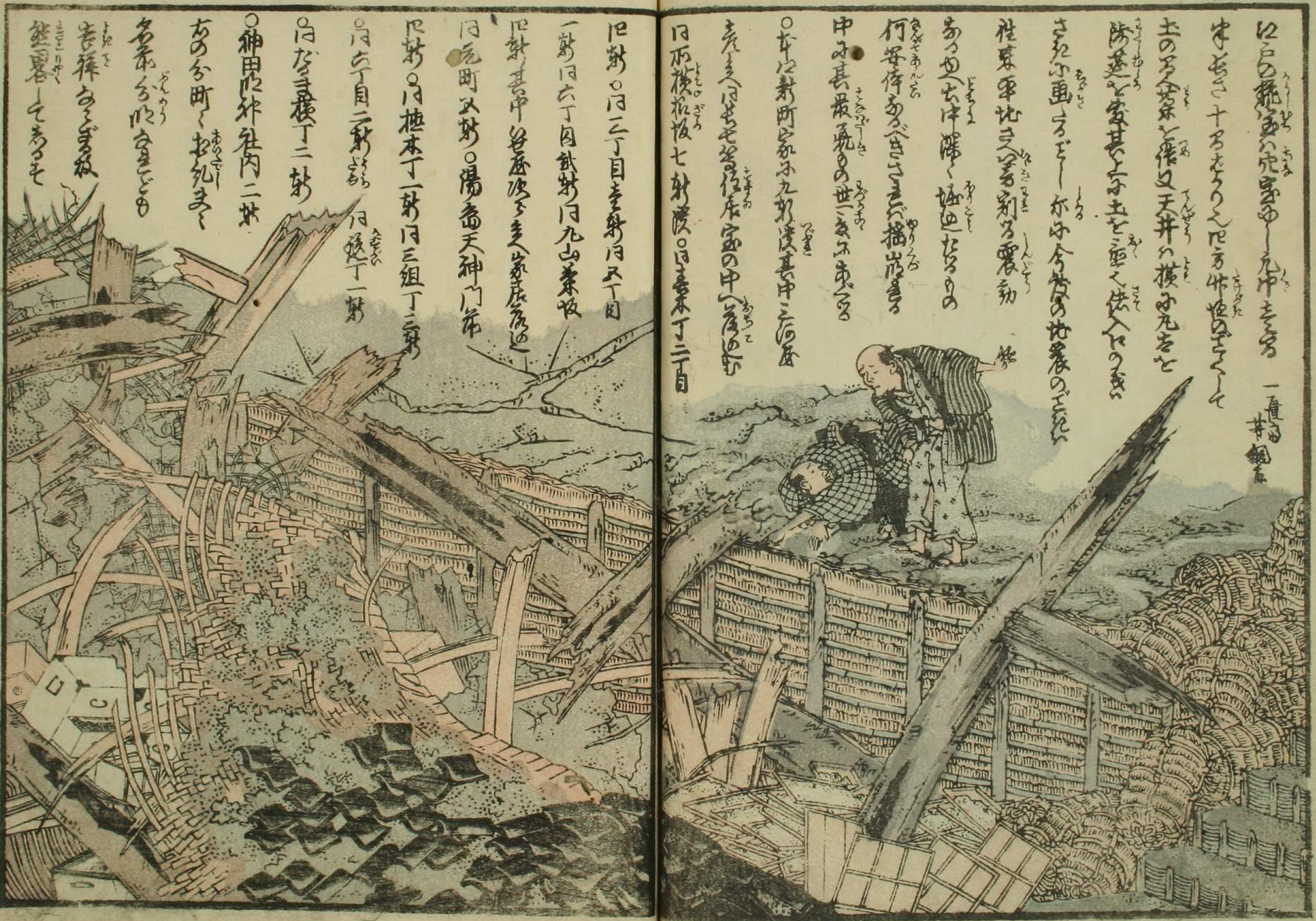
○神田外社内二射

あの方町。板丸ま

名所分町。板丸ま

吉祥。板丸ま

板丸ま。板丸ま



一 白米を牛外に金武集り 地内一町へ 納丁 酒名 高橋屋集

△お心包大被換返分爲市々 納丁留まふ丁日雨吉祥洗心あ丁行丁海嘉丁白
山色大被換爲多々 △鶴声が宿に響き丁多々大被換△を坂丁日分替地前
色大被換爲多々 △上野は林日南方万足指病々夫日雨は好も丁の四方
小庭愛大被換雨あり

世 水乃橋より小石川の外大被換△水戸候泰平は之方武家町家大ふ爲れ
流家多一 日雨病方立妻橋東方中坂塚牧徳谷荒川氏と申丁余焼
以を色武家大被換日雨寒方町家爲雨の内も多一

世 天祥下申丁焼△色院本を申外被換日雨寒の辺爲多一
△青羽獲持院大塚色大被換爲多々水乃丁色大被換△月白不動△後院
坂口は丁難司若丁日通きのる大被換武家町家爲被換雨多一 △難司若
鬼子お神本を夫日雨の被換△湯山法中住持増被換練る及ふ上被換

△斗辺美来下の色小水次と申るものあり是れ批の懸てる一が右十月二百年刻
近色の人の苦を言ふ今夜もあまき天災あらん何事ぞ知して危と逃る我の
安全の地へは退んといふ其秋と尋んと止る人々と別退るに倒逆也一りも知
まぬるの困乏を人々を爲れと五斤付る利公の俸とえて船乗は批法との
疑云と傳へ今より言傳へりやとあつと夫れ批言ふ其夜批地震有るに
東次の前と始てさつ後悔一合多るる相又地震ますりて後もこの
批懸の家小返る言問ひ申す余初も有るんといひるを傳へて人々を要と云ひ
あつ體又所々の大災も有る一とある所家又い傾る取より爲れ家放書と抄出
御座り書と傳へ一戸を以て板とあり世に多るれと凌のこふて人々批の中着
て其の書もあつち批法と返る言ひ人々傳へるも難もあるべしと云ひ
批懸の末次小長やの行取入逆形一と聞かぬ然して元格の知りあまき言ひ一と云
安堵して其家とを傳へる言ひ一と云ふ家業と云一なる亦不批も脱てその言と云一と云

震有りと後方と云ふに、
 甲列の結實人後介と云ふ人、去十月二日中仙道熊谷宿と云て江戸へ入
 りと途と云ふ事、其日行と云ふ人、海濱の某と云ふ浦に宿りて日、暮
 けき其は家業の都合ありと云ふ事、道中と云ふ事、萩宿板橋ありと云て
 結實が四まであり、は、其刻ありと云ふ事、途と云ふ事、西小北東の方より
 立ちかへりて、其の中、小、青光りあり、もの、烈風の吹く、ひびき、まじり、花
 ざり、しる、こち、小、怒動、揺の音、ま、ま、ま、と、恐怖、と、地、小、倒、る、大、地
 震、お、て、ま、ま、の、家、舎、の、崩、落、ふ、実、小、又、揺、り、引、裂、く、と、ま、ま、と、り、あ、り、と
 震、の、ど、く、更、小、揺、後、と、ま、ま、と、り、世、思、わ、れ、地、震、の、希、兆、あ、る、ん、う、
 ち、と、日、客、の、喧、嘩、と、云、つ、る、の、淺、草、み、て、ま、ま、と、り、人、の、口、物、を、ま、ま、と、り、



